

# 多賀城CLT事務所棟での温湿度測定（H30年度事業）

## 研究の目的

木材には調湿機能があり、内装を木質化する事で空間内の湿度をある程度一定に保つことは知られているが、**実際の物件での測定データはまだ少ない**。また、躯体にCLTを用いた場合、その断熱性能も室内空調に大きく影響を与える可能性が考えられる。本件では、年間を通して継続的に温湿度を計測する事で、内装木質化、及びCLT建築物の断熱性能等を検証し、**今後の木造建築物の普及拡大のためのデータ蓄積を目的とする**。

## 建物概要



所在地：宮城県多賀城市

名称：ナイス株式会社仙台物流センター事務所棟

竣工日2017年3月16日

構造 木造CLT+鉄筋コンクリート造 2階建て

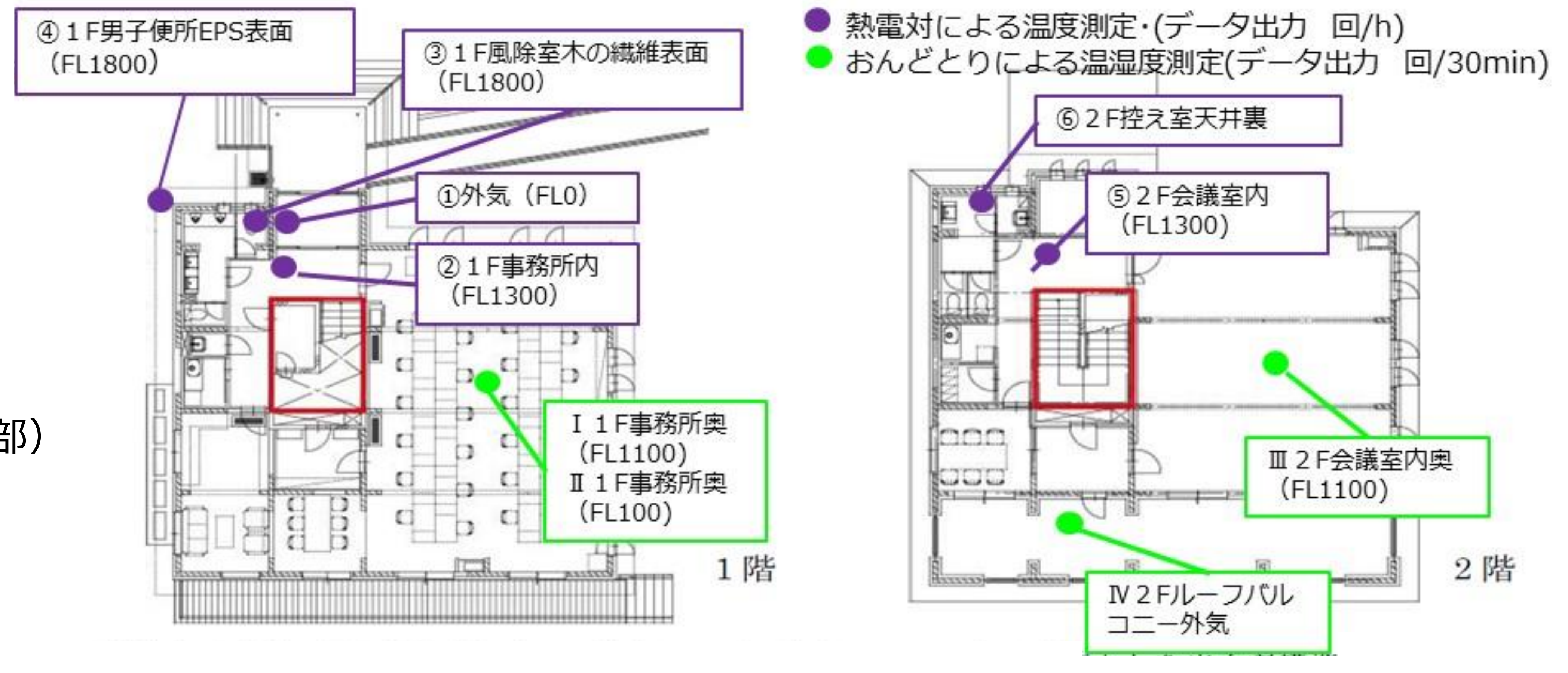
## 測定概要

### ◇測定機械

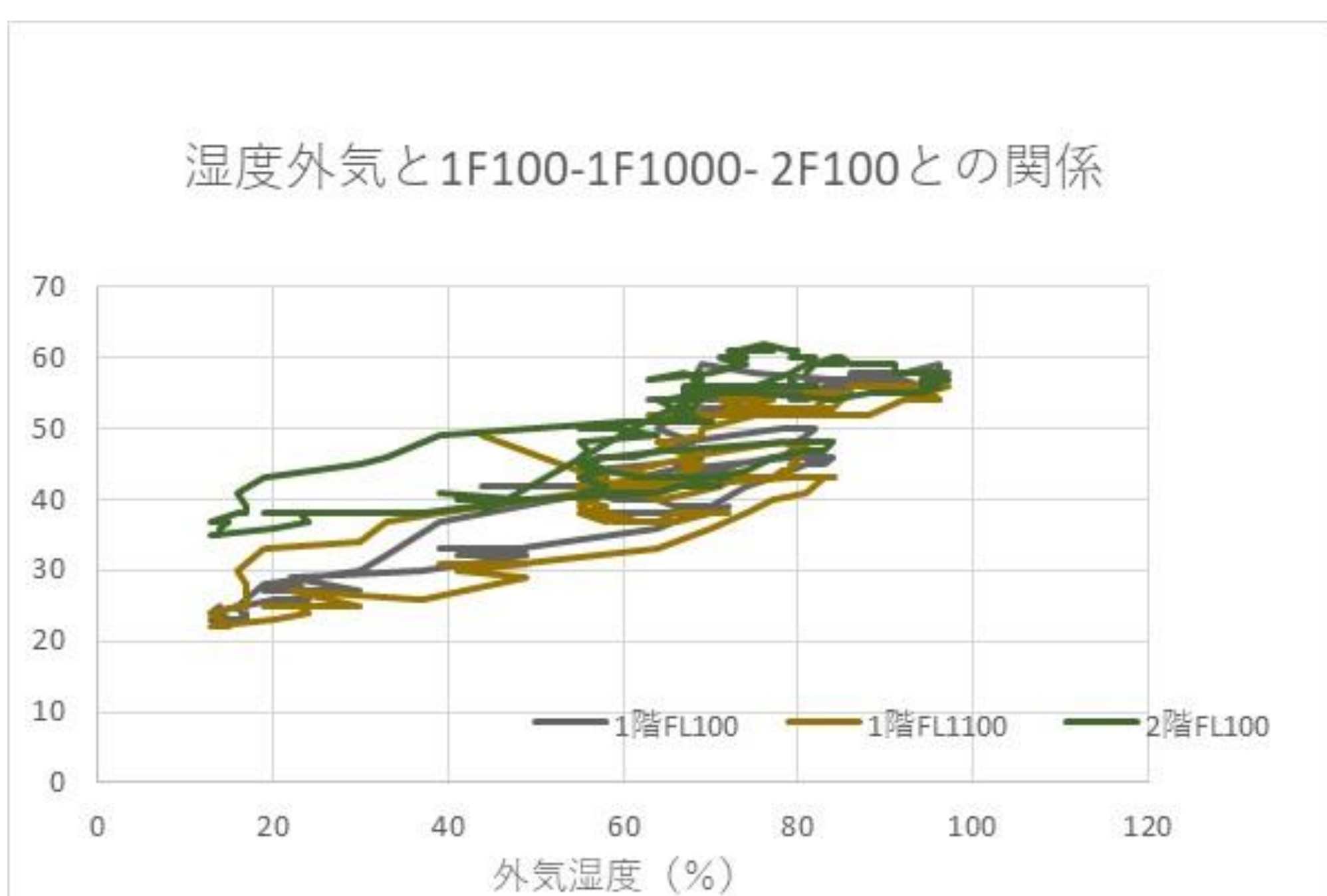
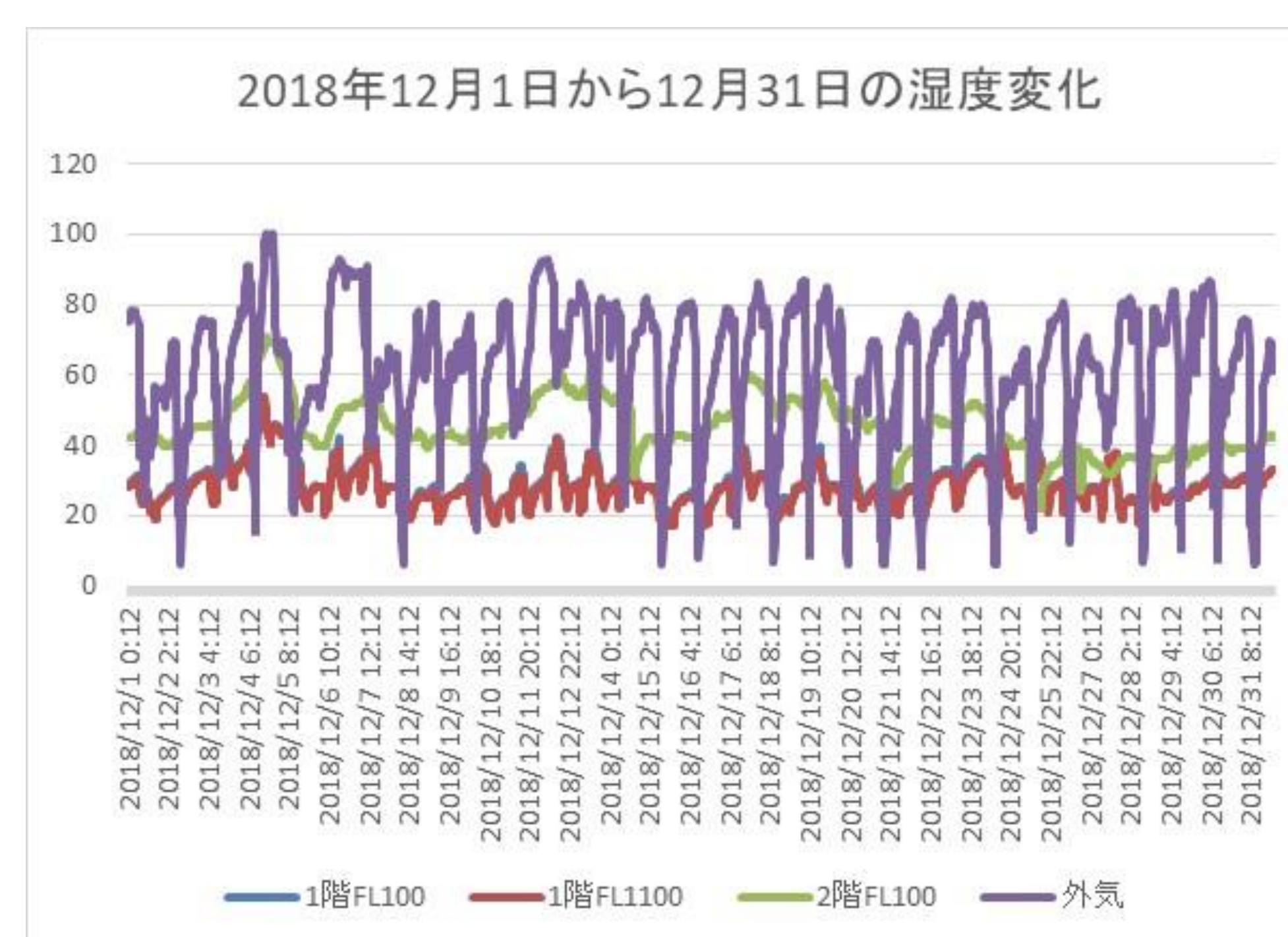
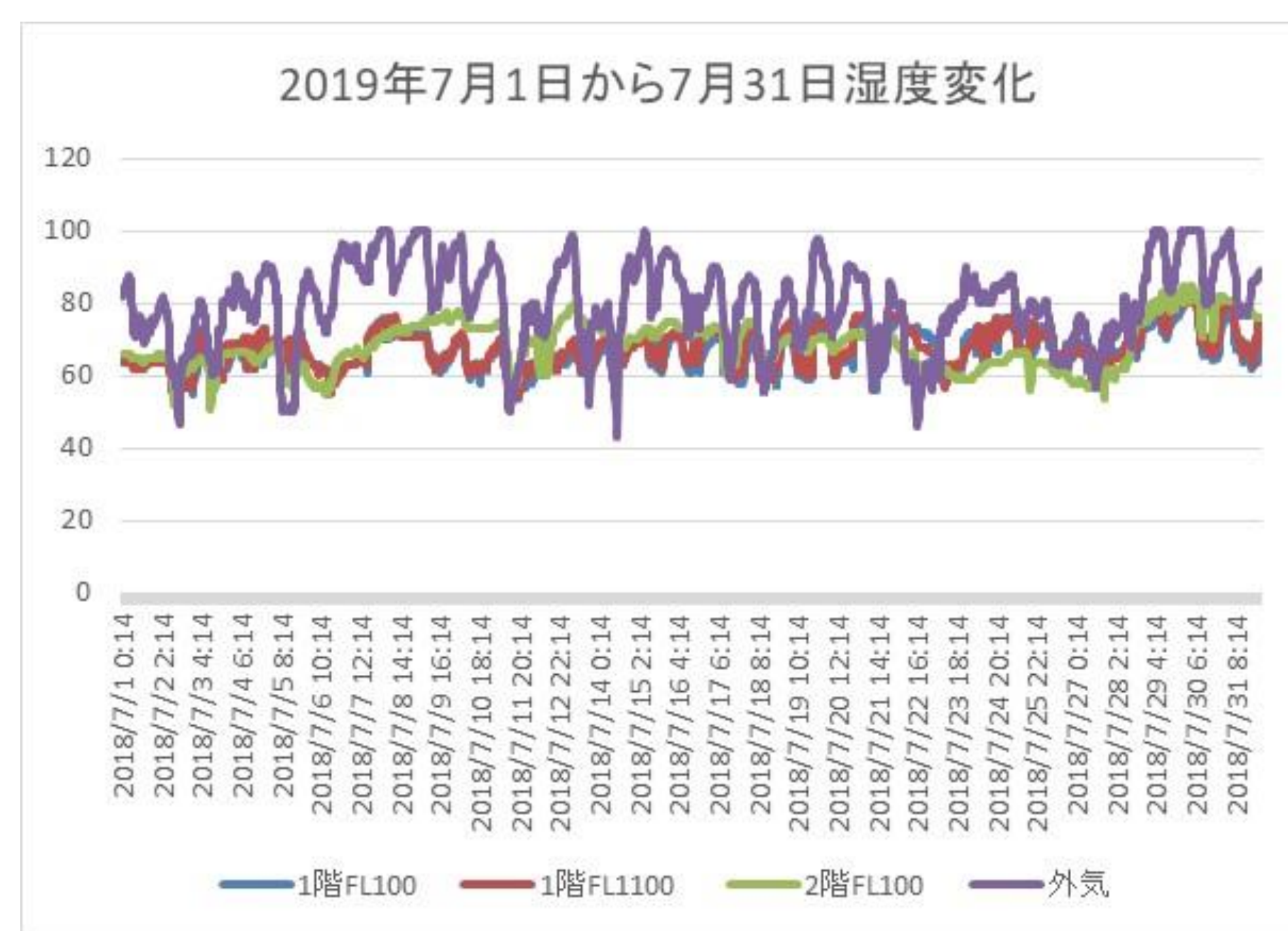
- 熱電対温度センサー
- (株)T and D社  
おんどとり TR-72nw

### ◇測定場所

- 熱電対 1階4か所（内1か所外部）  
2階2か所
- おんどとり 1階2か所  
2階2か所（内1か所外部）



## 結果（おんどとりによる測定）



夏季（7月）と冬季（12月）の平均湿度を比較すると、外気の湿度の変動幅に比べ、室内の変動は小さくなる傾向が顕著にみられた。内装木質化された建築物では、木材の調湿機能が発揮され、湿度の安定化が図られることが明らかとなった。

なお、本事務所は1Fは事務所スペース、2Fは会議室となっており、1Fは常時エアコンが稼働しており、2Fは会議室使用時のみのエアコン稼働となっている。冬季の2F湿度が高くなっているのはそのことが起因していると考えられる。

冒頭でも述べたように、木材の持つ調湿性能を実際の建築物で測定している例は少ない。本物件での計測は今後も引き続き行い、データの蓄積を進めていき、木造、木質化の推進に役立てていく。